



## CHAPTER 2

# ASA 5550 のスループットの最大化



(注)

この章の内容は、Cisco ASA 5550 にだけ適用されます。

Cisco ASA 5550 適応型セキュリティ アプライアンスは、この章で説明するガイドラインに従って設定する時にスループットが最大になるように設計されています。

この章は、次の項で構成されています。

- 「組み込みネットワーク インターフェイス」(P.2-1)
- 「スループットを最大化するためのトラフィックのバランシング」(P.2-3)
- 「次の作業」(P.2-5)

## 組み込みネットワーク インターフェイス

適応型セキュリティ アプライアンスは、銅線ギガビット イーサネットおよびファイバ ギガビット イーサネット接続を可能とする 2 つの内部バスを備えています。

- スロット 0 (バス 0 に対応) には、4 つの組み込み銅線ギガビット イーサネット ポートが用意されています。
- スロット 1 (バス 1 に対応) には、4 つの組み込み銅線ギガビット イーサネット ポートと、ファイバ ギガビット イーサネット接続をサポートする 4 つの組み込み SFP が用意されています。

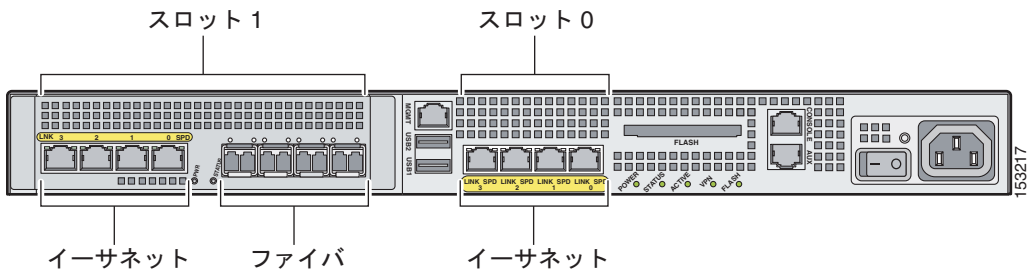


(注)

適応型セキュリティ アプライアンス上でファイバ接続を確立するには、使用するファイバポートごとに SFP モジュールを注文してインストールする必要があります。ファイバポートと SFP モジュールの詳細については、「[SFP モジュールの取り付け](#)」(P.3-6) を参照してください。

図 2-1 に、Cisco ASA 5550 の組み込みポートを示します。

図 2-1 ASA 5550 の組み込みポート



(注)

スロット 1 には、4 つの銅線イーサネットポートと、4 つのファイバイーサネットポートが用意されていますが、一度に使用できるスロット 1 のポートは 4 つまでです。たとえば、2 つのスロット 1 銅線ポートと 2 つのファイバポートを使用できますが、すでに 4 つのスロット 1 銅線ポートをすべて使用している場合、ファイバポートは使用できません。

# スループットを最大化するためのトラフィックのバランシング

トラフィックのスループットを最大化するには、トラフィックがデバイス内の 2 つのバス間で均等に分配されるように適応型セキュリティ アプライアンスを設定する必要があります。そのためには、すべてのトラフィックがバス 0（スロット 0）とバス 1（スロット 1）の両方を通して、入力是一片方のバス、出力はもう片方のバスを通るようにネットワークを設計します。

図 2-2 と図 2-3 では、すべてのトラフィックがデバイス内の両方のバスを通過し、適応型セキュリティ アプライアンスがスループットを最大化できるように、ネットワークのトラフィックが分散されています。

図 2-2 スループットを最大化するために均等に分配されたトラフィック（銅線から銅線へ）

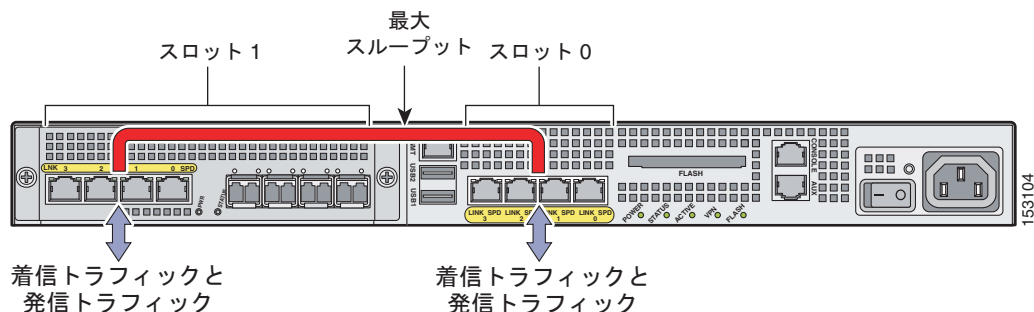
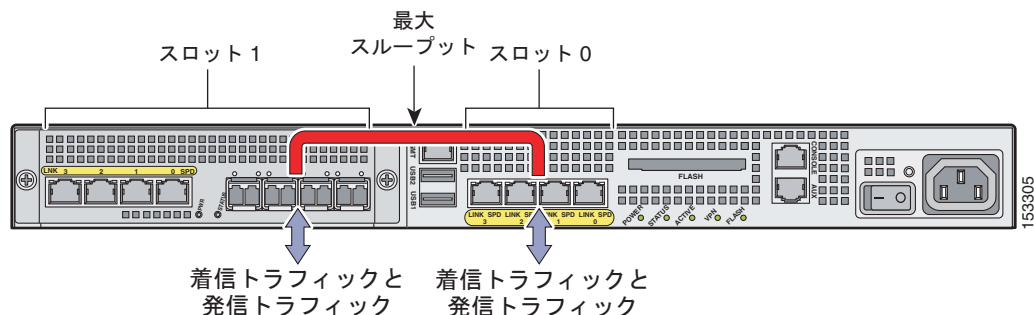


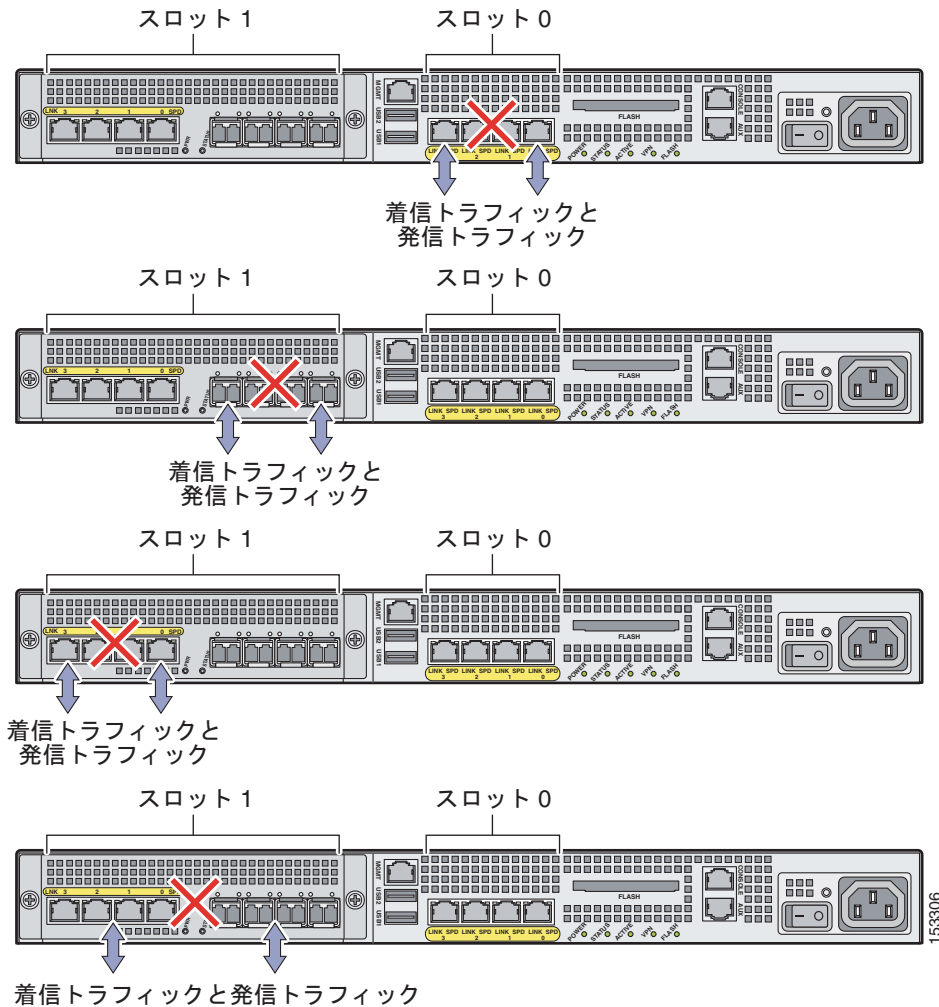
図 2-3 スループットを最大化するために均等に分配されたトラフィック（銅線からファイバへ）



## スループットを最大化するためのトラフィックのバランシング

図 2-4 に、ネットワーク トラフィックがデバイスの片方のバスしか通過しないために、適応型セキュリティ アプライアンスがスループットを最大化できない設定をいくつか示します。

図 2-4 スループットを最大化できない設定





(注)

**show traffic** コマンドを使用すれば、各バスにおけるトラフィックのスループットを確認できます。このコマンドの使用に関する詳細については、『*Cisco ASA 5500 Series Command Reference*』を参照してください。

## 次の作業

第 3 章「ASA 5550 の取り付け」に進みます。

